

第 29 回（令和 5 年度第 2 回）静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 日時 令和 6 年 3 月 28 日（木） 午後 2 時～午後 4 時
- 2 場所 清水産業情報プラザ 3 階 研修室 I 室
- 3 出席者 **【委員】**
鳥羽委員（会長）、山下委員（副会長）、伊藤委員、上妻委員、杉山委員、鈴木委員、
牧野委員、望月委員
【事務局】
金丸経済局次長兼商工部長
産業振興課：石川産業振興課長、水島地場産業担当課長兼地場産業係長、
五十嵐工業振興係長、頭師主査、天野主任主事、
新村主任主事、石川会計年度任用職員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題 第 4 次静岡市ものづくり産業振興基本計画
令和 6 年度に向けた登載事業の見直しについて
- 6 報告事項 オープンファクトリー推進事業の実施結果について
- 7 会議内容
 - 開会（産業振興課石川産業振興課長）
 - ・井野委員・松岡委員・弓桁委員が欠席であるが、他の委員は出席しており、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則の規定に基づき、本日の審議会が成立していることを報告。
 - ・本審議会を公開とすること及び議事録も公開とすることを確認し、各委員が了承。
 - 経済局次長あいさつ
 - ・本年度は、新市長のもと、庁内の組織を跨いだワーキンググループにより、多様化する多くの課題に対する検討が行われ、経済局関連でも、DXやGXといった、従来から課題とされ、ものづくり産業振興基本計画にも掲げる分野の事業強化に加え、BX（ブルートランスフォーメーション）や、スタートアップ支援についての予算が拡充されたところ。本日の審議会においては、これら令和 6 年度予算を踏まえた、ものづくり産業振興基本計画の登載事業の修正についてご意見、ご承認をいただきたく、活発な議論をお願いしたい。
 - 審議事項に関する事業説明・意見交換
（五十嵐工業振興係長）
 - ・令和 6 年度の経済局商工部の組織機構について説明（【資料 1】の別紙）

- ・基本計画の令和6年度に向けた見直し内容について説明（【資料1】P2）

（鈴木委員）

- ・自分の友人も事業承継も問題を抱えているが、事業承継の支援の担当が市から県に変わったという理解で良いか。

（石川産業振興課長）

- ・市も承継の支援を行っているが、商工会議所が県の「事業承継・引継ぎ支援センター」の役割も担うなど機能が充実してきたので、相談窓口を一本化したところ。その窓口へ繋ぐことが市の役目と考えている。

（鈴木委員）

- ・そうすると、事業主は承継について、商工会議所に相談に行けば良いのか。

（石川産業振興課長）

- ・金融機関や市の産業支援機関など窓口は様々あって、そこからセンターに繋いでもらうことになる。

（鈴木委員）

- ・事業を辞めてしまう事業主が多いので、そうなる前に何とか引き留めていただきたい。

（石川産業振興課長）

- ・親族内だけでなく第三者への承継も含めて、しっかりフォローしていきたい。

（牧野委員）

- ・第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画策定時には、人口減少や少子高齢化が進行し、人出不足が益々、加速化する中で、人材育成やIT化の推進が重要であるとの認識のもと、「DXによる『稼ぐ力』強化事業」や「産学官連携による『人材力』強化事業」に取り組んでいくという説明だったが、これら事業についてどの程度、対応できて、今後、どのような課題があると考えているかについて伺いたい。

（五十嵐工業振興係長）

- ・本年度の見直し内容について、資料「令和6年度静岡市中小企業等DX関連施策一覧」により説明。

（石川産業振興課長）

- ・アンケート結果やそれに基づく審議を踏まえ、人出不足の解消を図る取組として、業務の効率化と在職者のスキルアップという視点を盛り込んだ。今後については、それぞれ成果指標を設けているので、事業の進捗状況をみて、必要に応じて新たな仕掛けも考えていきたい。

（牧野委員）

- ・基本計画策定時のアンケート結果に的確に対応しており、力強く感じた。先が見えない時代には、

立てた計画をそのとおりに進めていくマネジメント思考とともに、状況をみながら適宜、調整を図っていくデザイン思考も重要であるので、こうした観点から良い方向に進めていただきたい。

(上妻委員)

- ・ 中小企業等D X支援事業の専門家支援は、工科短大やポリテクセンター、理工科大学のメンバーが行うのか。

(五十嵐工業振興係長)

- ・ 伴走支援については、データ分析や製造現場の工程管理に長けた専門家を想定しており、公募をかけるので、これらに精通した民間事業者や大学などに応募してもらいたいと考えている。

(上妻委員)

- ・ この事業は、商工会議所が行うのか。支援できる専門家は、揃っているのか。

(五十嵐工業振興係長)

- ・ 市が専門家に委託して実施する。ものづくり現場のD X化支援に取り組んでいる専門家は、他市の事例もあり、ある程度は把握している。

(鈴木委員)

- ・ 中小企業診断士を想定しているのか。

(五十嵐工業振興係長)

- ・ 診断士も想定されるが、プロポーザルで専門家を選定することを想定している。個人が一人で支援を行うケースだけでなく、複数人で組んだチームが、それぞれの専門の立場から一社を支援するという提案が出されることもあると考えている。

(山下副会長)

- ・ 上妻委員とともに、商工会議所の製造現場改善の運営委員を務めている。年間 15 件程度を支援しており、5 Sなど製造現場の改善に加え、最近はD X化の案件も増えており、会議所と守秘義務契約しているアドバイザーも増えている。市が支援を始めるならば、こういった方々の活用について前向きに考えてほしい。

(石川産業振興課長)

- ・ 両委員が長く現場改善に携われ、効果を上げていることは十分、承知している。様々なメニューの中で、事業者が適切なメニューを選べるようにしたい。

(望月委員)

- ・ この事業は、事業者の負担があるのか。

(五十嵐工業振興係長)

- ・ 事業者には負担はない。

(石川産業振興課長)

- ・ 「スタートアップ事業」について、資料に基づき説明。

(水島水島地場産業担当課長兼地場産業係長)

- ・ 「地域おこし協力隊」について、資料に基づき説明。

(鈴木委員)

- ・ 東京出身で、市内での農林水産業を手伝っている人を知っているが、今の説明では、工業製品も扱うし、また、東京だけでなく静岡市内からの移住も可能とも受け止めたが。

(水島水島地場産業担当課長兼地場産業係長)

- ・ 制度が始まった当初は、中山間地に住むことが要件であったが、その後、制度が変わって、今は中心市街地に住むことも可能となった。三大都市圏の都会から静岡市に移住すると要件に当てはまるので、その中から適任者を委嘱することを考えている。5月頃からホームページで募集する予定なので、伝統工芸品や地場産品に興味を持つ移住希望者がいたら教えていただきたい。

(山下副会長)

- ・ 「令和6年度に向けた見直し内容」の資料3ページに「B X推進課」とあるが、組織図の中にはこの記載がないが。

(金丸経済局次長兼商工部長)

- ・ B Xという言葉には馴染みがないと思うが、「B」は「ブルー」のことで、DX（デジタル化）やGX（脱炭素化）などの動向の中で、海を持つ静岡市としては、造船など従来の産業から、より可能性を持った新たな海洋産業の振興を目指す「ブルートランスフォーメーション」に取り組んでいく。4月から海洋産業推進統括監という役職に就くが、海の活用の出口として産業に結び付けるという大きな目的があるので、ものづくり産業と海洋との結び付きを探っていきたい。

(小澤委員)

- ・ 先ほどDX関連の説明にあった「ITなんでも相談窓口」は連日、多くの方に来ていただいているが、そのほとんどが数名規模の事業者で、相談員がお金をかけない小規模事業者向けのDX化を提案している。
- ・ ITやDX化の設備の導入に関しては、IT導入補助金やカタログ補助金と言われる新たな制度など、多くの施策があるが、導入した設備を活用して効率化を図っている企業と、お金をかけて設備を入れても効果が出ていない企業がある。これからは、設備の導入よりも、リスクリングの教育が重要視されると感じており、デジタル補助金による設備導入とリスクリング教育がセットでできるような形になれば有効に活用できると思う。
- ・ スタートアップについては、地元企業や商店街が参考にできるよう、成功事例までいかななくても、

こんな事業が進捗しているという情報を出していただきたい。

(石川産業振興課長)

- ・デジタル関係の事業は、これまで相談やデジタル補助金など単発で終わっていたので、これから相談に行った人が、必要に応じてデジタル補助金やリスキングの補助金を活用するなど、パッケージで支援することが大事だと思っている。
- ・スタートアップについては、どんな人が関わって成功事例が生まれたのかも含めて、積極的に情報提供していきたい。

(杉山委員)

- ・資料2ページの「越境EC支援事業」では、どのようなことを行うのか。

(石川産業振興課長)

- ・これまで台湾に向けていわゆるB to Bのテストマーケティングを行ってきたが、消費者にも売りたいという事業者の声もあるので、本事業では、地場産品や伝統工芸品、食品の加工なども想定している。一方で、伝統工芸品は木目塗装でも一品一品違って、実際に手に取ってみたいと思う方もあるので、ECサイトに載せている間に、アメリカで実際に実物を展示するなど底上げして、注目してもらえるようにしたい。杉山委員の特産工業協会とも連携させていただきたい。

(鳥羽会長)

- ・越境ECについては、以前、ロシアや北米など、海外への売り込みを進めていたが、疑わしい相手だったため、取り止めたという話を聞いたことがあり、難しいと感じている。一回、フィルターを通してもらって大丈夫だとわかれば安心できると思うが。

(石川産業振興課長)

- ・いきなり多くの商品や企業を対象とするのではなく、まずはトライアル的なこととして、信頼のおける業者に間に入っていただく。

(伊藤委員)

- ・「地域産業を学び支える人づくり」に関して、関心を持ってもらうために、同施設で二つのイベントをすることと、他のイベントとコラボすることを提案する。プラモデル大学や、ものづくり産業に関連する体験機会は、子どもたちがより深い関心を持ってもらう機会として良い取組だと思うが、高校・大学と進むにつれて学校の授業の一環でものづくりに参加する機会は少なくなり、プラモデル大学も、もともと興味のない人が申し込んで体験するのはハードルが高い。そこでミナト・ホビーフェスのように、年齢層も幅広く多くの人たちが集まる場所でイベントを行うことが、まず知ってもらうという意味で、裾野を広げる一歩となると思う。昨年、ミナト・ホビーフェス行ったアンケート調査では、ドリームプラザで買い物に来た際に立ち寄ったという人もみられたので、こうした商業施設で行うことや、単体より他のイベントとコラボすることが効果的だと考える。

(石川産業振興課長)

- ・ミナト・ホビーフェスでのアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございます。ドリームプラザなどで違う目的で訪れた方にイベントに参加してもらうことも有用なことと思う。また、新たな事業として、プラモデルの全国大会を静岡で行いたい。小学校でプラモデルを作っても、その後忙しくなって離れてしまう人が多い中、中高校の部活などで活動しても、自分たちの作品を発表する機会がないことが課題であるので、こうした仕掛けを考えている。

(鳥羽会長)

- ・引き続き、4次計画登載事業の適切な進捗管理をお願いする。

● 報告事項に関する説明・意見交換

(天野主任主事)

- ・「オープンファクトリー推進事業」について、資料2等により説明。

(五十嵐工業振興係長)

- ・一回目で周知が難しかった。参加企業の方々が多数、工場見学されたが、一般の方がもっと参加できるようにしたい。主体は参加企業による実行委員会だが、市や産業振興協会、商工会議所などの支援チームによるサポートや、大学・専門学校の学生による広報やスタッフとしての協力など体制を強化し、参加企業を増やしていきたい。運営は市補助金のほか13の事業者からの協賛金で賄ったが、実行委員会と協議して趣旨に賛同する企業の募集も検討するので、皆様からの様々な御意見を伺いたい。

(杉山委員)

- ・実際に機械にも触れることができ、楽しく体験できたが、場所が離れているので、多くの箇所を回ることは難しかった。

(山下副会長)

- ・バスツアーに参加して、3社を見学できた。中小企業は案内などに人を割けない中で、他社の新入社員がサポートに入っているのは良いことだと思う。大企業でも学校や団体は受け入れているが、個人でも希望があれば受け入れても良いのではと感じた。

(鈴木委員)

- ・2日間、参加した。1社は社長が前線に出て説明していた。加工前・加工後の実物を用意するなどかなり準備している様子が窺え、会社のやる気を感じた。機械を動かす社員も張り切っていたし、励みになったのではないかと感じた。中小企業には負担が大変だが、この取組を来年以降も続けていただければ、静岡のものづくりのモチベーションも上がると感じた。

(鳥羽会長)

- ・2社を見学した。1社は、休日で機械は稼働していなかったが、その分、施設の中を詳細に見学できた。他の1社は、事故の危険性もあり製造現場ではなく、映像での見学であった。「臨場感」という面では今一步であったが、それを補うためにワークショップで製造体験を行うなど、会社が頑張

っている所を見ることができた。

- ・この取組を継続してブラッシュアップしていけば、見せ方も上手くなるし、買い物をしたい見学者も多いので、販売に繋げることができれば、手間は掛かるが売り上げ増も見込める。静岡にはいろいろな産業があって「刃物の町」のようなキャッチフレーズは付けられないが、毎年続けることで様々なものづくりを知ることができて、面白い事業ではないかと感じた。

● 事務局から事務連絡

● 閉会（石川産業振興課長）